

教 育 長 様

校番 033 府中 高等学校長

**「高等学校課題発見・解決学習推進プロジェクト」に係る研究開発校
令和2年度 報告書****1 研究の概要**

研究の目標

生徒の資質・能力の伸長を図るため、各教科・科目や「総合的な探究の時間」等のルーブリック評価を行う。また、各教科の学びをより生かせるように「総合的な探究の時間」のカリキュラムを改良する。

総合的な探究の時間等の取組内容

① 生徒の状況把握及び分析

「総合的な探究の時間」等においては、授業内の発表や成果物をルーブリック評価し、分析している。資質・能力は学校全体で育成していくため、総合的な探究の時間以外でも、教科横断型活用問題や各教科・科目の単元末考査における活用問題を実施し、ルーブリックを用いて分析・評価し、生徒の成長度合いを測っている。

また、育成する資質・能力の1つである「学びの継続力」については、学期ごとに自己の学習状況等を振り返ったものを把握し分析している。

② 育成する資質・能力の設定（共有）

育成する資質・能力の一部である「読解力」「論理的思考力」「表現力」を「カリキュラム・マップ」の形として1枚にし、各教科・科目のつながりを視覚化した。「カリキュラム・マップ」では単元名のみを明記し、各教科・科目において、単元ごとに「単元シラバス」を作成している。「単元シラバス」には、「カリキュラム・マップ」と整合性をもたせながら特に育成したい資質・能力を明記することで学校全体で育成する資質・能力を共有した。

③ 資質・能力の育成に向けた各種計画の作成

前年度までの状況を踏まえ、学校全体で資質・能力を育成するために、管理職や各主任等で議論を重ね、学校経営計画等の各種計画を作成した。

④ ③に基づく教育活動の実施状況

学校経営目標の一つである生徒の人間力を高めるとともに、学力の向上を図り、希望進路を実現するため、各教科・科目において単元シラバスに沿って計画的に授業を実施することができた。また、「総合的な探究の時間」の全体計画や年間指導計画に基づき、自己の学びの仕組みや持続可能な社会の構築をテーマに、探究的な見方・考え方を働かせ、仮説・検証型の探究学習を実施した。2年生の「府中学」においては、「府中をより良いまちにするには」というテーマのもと、現状分析、課題設定を行い、解決策を考案した。昨年度の課題として、生徒が自分事として課題を捉えることができていないことが挙げられたため、グループの作り方を変更したり、府中市役所の職員の想いを直接伺う機会を設けたりした。代表グループはポスターによるプレゼンテーションの形式で府中市役所の職員に提案を行った。

⑤ 評価活動（ルーブリック等の活用等）

前年度と同様に、「総合的な探究の時間」等の授業においては、生徒の成果物や発表の状況をルーブリックで評価し、各教科・科目においてもパフォーマンス課題や考査の活用問題をルーブリックで評価をしている。また、教科横断型活用問題の評価にもルーブリックを活用している。各種データは、評価後の授業で活用するほか、取組内容等の分析に活用し、次年度のシラバス等の改善に生かしている。

⑥ 次年度計画への反映

次年度より1年生から3年生にかけて「課題研究」を行うこととし、生徒一人一人が自分の興味・関心に沿った題材を設定できるようにしていく。広島大学等と連携し、生徒にアドバイスをいただく機会を設けるなど個々の研究を深めるための仕組みづくりをしていく。また、2年生においては全6クラスを12の分野に分けて展開し、探究活動を行っていく。

成果

・さまざまな教育活動を繋げ、指導と評価の一体化を図り、指導計画の修正やカリキュラムの改良に生かすことができた。

課題

・生徒が主体的に探究活動に取り組むための仕組みづくりをしていく必要がある。
・次年度から5単位を3単位に変更し、課題研究を軸にした内容に改良していくので、これまで行われてきたことでも必要性・妥当性を見直しながら授業計画をする必要がある。

次年度の目標（育成する資質・能力）及び取組内容

次年度も8つの資質・能力（「知識・技能」「読解力」「場面把握力」「論理的思考力」「表現力」「学びを生かす力」「協働」「学びの継続力」）の育成を行う。各教科・科目においては、単元シラバス等を基に授業を実施し、パフォーマンス課題等で生徒の成長度を測っていく。

「総合的な探究の時間」等においては、課題研究に取り組み、探究のプロセスを繰り返すことで、各教科・科目で学んだことを生かし、資質・能力をさらに伸長できるようにしていく。